

イルカ資源管理調査*

小久保友義

目的

我が国周辺水域に分布回遊するイルカ類資源とその利用の実態を把握し、資源の合理的利用と保存を図るために必要な科学的知見を収集・整備する。

本県では、小型鯨類を漁獲対象とする漁業として、小型捕鯨、追い込み網漁業とイルカ突棒漁業の三つがある。このうち、事業委託者である遠洋水産研究所から特に調査が求められているのは、「イルカ突棒漁業」の漁業実態についてである。平成10～14年度にはイルカ類（クジラも含む）の生物調査等を実施し、得られた結果は我が国の科学的知見として資源の合理的利用と保存を図るため有効に利用された。遠洋水産研究所では、イルカ突棒漁業の概要はこの生物調査等によって大筋把握されたとし、平成15年度からはより詳細な操業実態の把握を目的に、熊野灘南部海域におけるイルカ類（クジラも含む）の分布および種類・密度等の目視調査を行うこととなり、本年度も引き続いて調査を実施した。なお、本調査は独立行政法人水産総合研究センターの委託を受けて実施するもので、調査結果は「平成16年度いるか資源管理調査委託事業報告書」として報告している。

方法

調査は平成16年度いるか資源管理調査委託事業実施要領に基づいて行った。

目視調査は、熊野灘突棒組合の推薦により、イルカ突棒漁業の期間中に当業漁船1隻を選定し、図1、表1に示すコースにおいて、計4回実施した。また、併せて目視記録および努力量、水温、天候等を記録した。なお、調査日の黒潮流路を把握するために、人工衛星の水温画像(NOAA/HRPT)を参考にしたが、曇天の時には、調査日の前後に受信できた1日合成画像を用いた。

結果

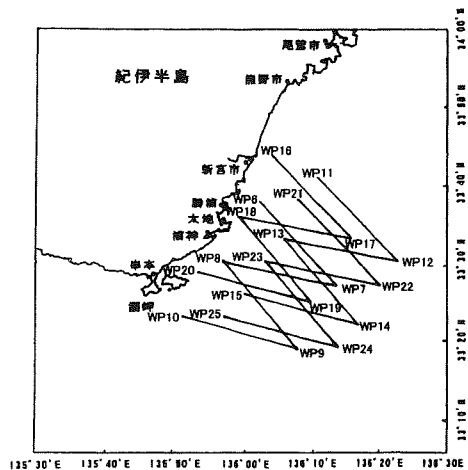


図1 イルカ類の目視調査コース

表1 イルカ類の目視調査定点および調査日

定点	緯度(N)	経度(E)	定点	距離(海里)	目視調査日
WP6	33° 38'	136° 02'	WP6→WP7	14.6	2004.05.26
WP7	33° 27'	136° 14'	WP7→WP8	14.4	
WP8	33° 30'	135° 57'	WP8→WP9	14.2	
WP9	33° 19'	136° 08'	WP9→WP10	14.4	
WP10	33° 23'	135° 51'			
WP11	33° 41'	136° 11'	WP11→WP12	15.0	2004.07.14
WP12	33° 30'	136° 23'	WP12→WP13	14.6	
WP13	33° 33'	136° 06'	WP13→WP14	14.4	
WP14	33° 22'	136° 17'	WP14→WP15	14.8	
WP15	33° 26'	136° 00'			
WP16	33° 44'	136° 04'	WP16→WP17	17.2	2004.07.12
WP17	33° 33'	136° 16'	WP17→WP18	15.2	
WP18	33° 36'	135° 59'	WP18→WP19	14.2	
WP19	33° 25'	136° 10'	WP19→WP20	14.6	
WP20	33° 29'	135° 53'			
WP21	33° 38'	136° 08'	WP21→WP22	15.0	2004.07.23
WP22	33° 27'	136° 20'	WP22→WP23	14.6	
WP23	33° 30'	136° 03'	WP23→WP24	14.2	
WP24	33° 19'	136° 14'	WP24→WP25	14.6	
WP25	33° 23'	135° 57'			

目視調査による努力量および天候等を表2に示す。各調査日は天候や視界も良好(約5マイル以上)で、WP10→WP9→WP8→WP7→WP6(2004.5.26)、WP20→WP19→WP18→WP17→WP16(2004.7.12)、WP15→WP14→WP13→WP12→WP11(2004.7.14)、WP21→WP22→WP23→WP24→WP25(2004.7.23)のコースを順番に航走した。探索時間はおよそ5～6

*いるか資源管理調査委託事業費による。

表2 目視調査による努力量および天候等

調査日	捜索時間	天候	風向・風力	視界	乗船トン数	捜索人数
2004.5.26	4h53m	晴れ	SE1-4	5-6	4.7	2
2004.7.12	4h45m	晴れ	SW1-3	5-6	9.7	2
2004.7.14	6h10m	快晴	SW1-4	6-7	8.2	3
2004.7.23	4h47m	晴れ	SE~NE1-3	5-6	7.2	2

表3 目視調査によるイルカ類の発見記録

調査日	発見時刻	種類	頭数	体長	発見位置	
					緯度(N)	経度(E)
2004.7.14	09:19	ハナゴンドウ	5-60	約2-3m	33° 25.51'	136° 13.14'

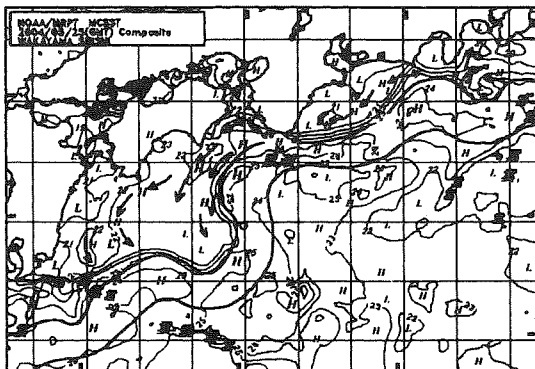
時間で、探索人数は2~3人であった。

目視調査によるイルカ類の発見記録を表3に、調査日前後の黒潮流路を図2に示す。また、水温分布上におけるイルカ類の発見位置を図3に示す。

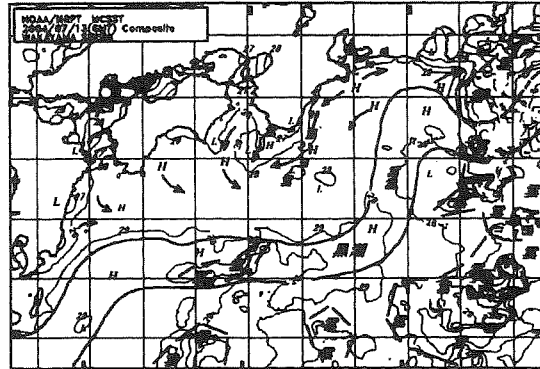
1 調査期間中の黒潮流路

5月26日の黒潮は、黒潮の小蛇行北上部が紀伊水道沖にかかり、潮岬南沖の黒潮北縁が5マイル以内に接岸した後、熊野灘~遠州灘沖を北東に流れ、御前埼に

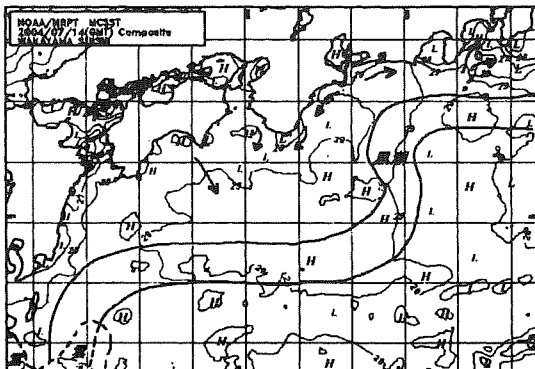
5月25~26日



7月13~14日



7月14~15日



7月22~23日

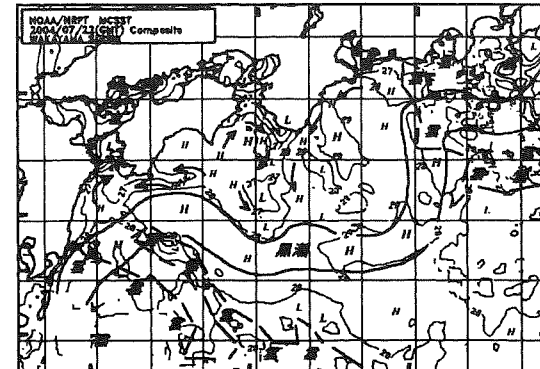
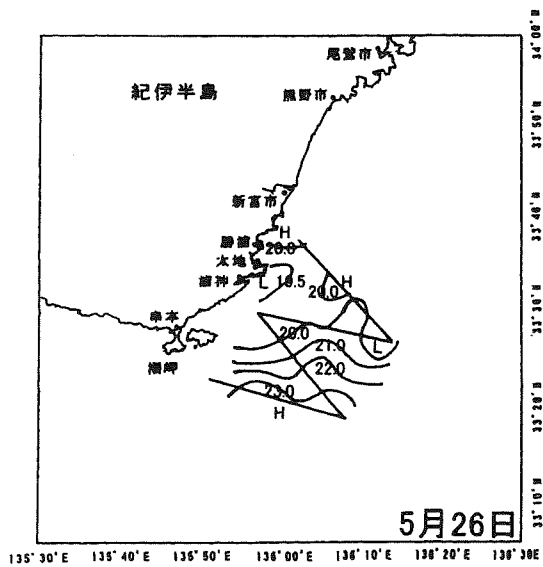


図2 目視調査日前後の黒潮流路の1日合成画像

極めて接岸していた。しかし、黒潮は6月上旬(6/7-8)には、東進してきた黒潮小蛇行の東端部の一部が潮岬沖を越え、黒潮北上部が熊野灘に直接流入した。6月下旬(6/27)には、この黒潮小蛇行本体の北上部が潮岬を通過して、熊野灘に流入した。7月12、14、23日の調査日は、黒潮流路が大蛇行型となり、潮岬南沖の黒潮は60～100マイルまで大きく離岸した。

2 目視調査結果

1) 5月26日の結果



調査は07時10分～12時03分を実施した。4.7トンの突棒船で、捜索は2人で裸眼にてブリッジから行った。目視調査中の船速はおよそ6～8ノットで、天候は晴れ、南東の風1～4mで視界も良好であった。この日のコース上の表面水温は、19.7～23.5℃の範囲であった。

なお、イルカ類の発見はなかった。

2) 7月12日の結果

調査は07時03分～11時48分を実施した。9.7トンの突棒船で、捜索は2人で裸眼にてブリッジから行

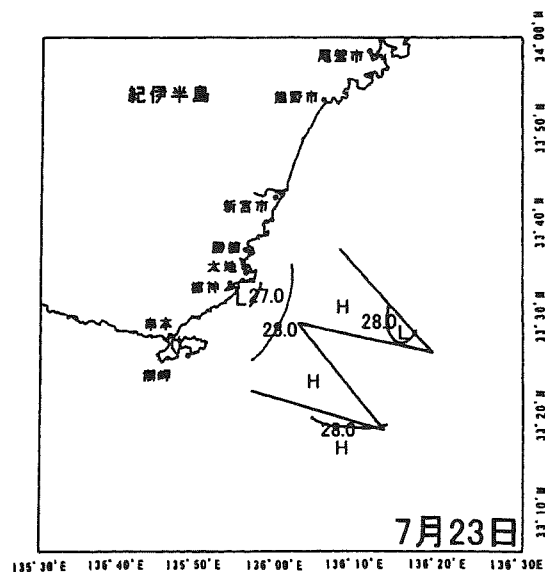
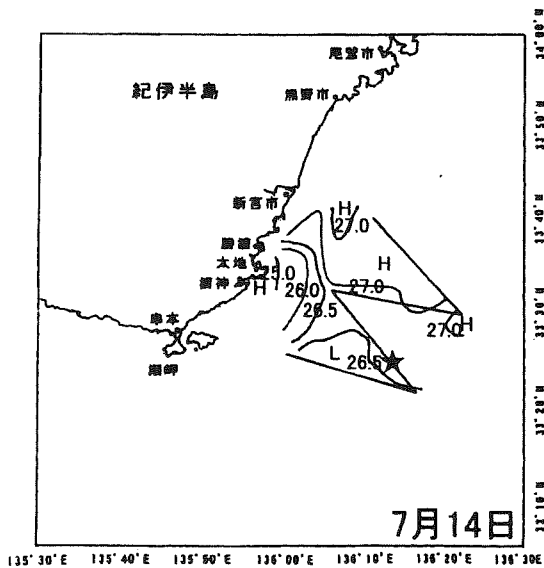
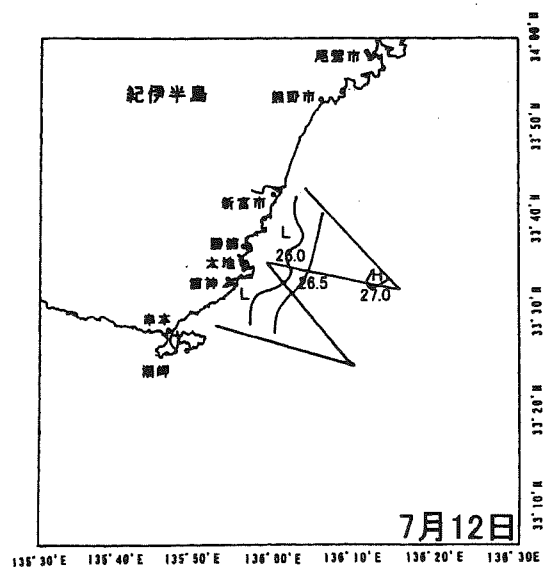


図3 水温分布上における発見位置
★：ハナゴンドウの発見位置

った。目視調査中の船速はおよそ6～8ノットで、天候は晴れ、南西の風1～3mで視界も良好であった。この日のコース上の表面水温は、25.5～27.0℃の範囲であった。

なお、イルカ類の発見はなかった。

3) 7月14日の結果

調査は07時10分～14時00分を実施した。8.2ト型の突棒船で、捜索は3人で船先の見張り台（双眼鏡にて）及びブリッジ（裸眼）から行った。目視調査中の船速はおよそ5～7ノットで、天候は快晴、南西の風1～4mで視界も良好であった。この日のコース上の表面水温は、26.3～27.4℃の範囲であった。

イルカ類の発見は、09時19分にコース上のWP14→WP13（33°25.51'N、136°13.14'E）において、左舷30°約100m先のハナゴンドウ約5～60頭（体長約2～3m）であった。発見時の表面水温は、26.6℃で、船長および他の乗組員がボディを手がかりに発見した。発見後、追跡して30分ほど観察し、最接近距離が3～4m程度になったが、仔鯨はなかったものと思われる。この群は、本船が最初に発見した模様で、他に突棒船は周辺に見当たらなかった。

4) 7月23日の結果

調査は07時02分～12時15分を実施した。7.2ト型の船で、捜索は2人で裸眼にてブリッジから行った。目視調査中の船速はおよそ6～8ノットで、天候は曇りのち晴れ、南西の風3～4mのち北東の風1～3m程度であった。この日のコース上の表面水温は、24.4～28.3℃の範囲であった。

なお、イルカ類の発見はなかった。

昨年同様、ハナゴンドウは追跡しても逃げることなく、接近できた。しかし、追跡時に見張り台で変わった行動や船の速度を落とすと、すぐに潜水した。特に、見張り台で銚を持った場合には、その反応が速かった。